

木の優しさと手のぬくもりで 北国の庭をデザインする

有限会社 マルヤマプランニング
代表取締役 丸山香史

北海道の庭

ここ数年、全国的にガーデニングブームと言われているのですが、北海道でも本州に遅ればせながら一昨年頃からかなりの早さで広がっています。しかし、一年のうちガーデンライフを楽しめる期間は4～10月の半年程度で、12月～3月は、雪捨て場になってしまいます。

雪の積もらない地域でも「寒さ」が人々を家に閉じこめ、殺風景な空間となっています。

マンションのベランダは戸建て住宅の庭に比べ、工夫次第では冬も楽しめますが、寒風にさらされながらビールやお茶を、と言う気分にはなれないでしょう。

そんな北国の冬でも時折、庭の木をイルミネーションで飾ったり、雪だるまが並んでいるのを見ると、とても暖かい気持ちになります。

花を植えるのだけがガーデニングではなく、ちょっとした遊び心で手軽に四季を楽しめる空間作りこそ、「北海道の庭」らしさを表現する事と思います。

冬を考えたエクステリア

先程も述べましたように、一戸建ての庭の場合、その多くが冬の間は雪が堆く積もってしまい、夏に楽しんだデッキやテーブルは一転、邪魔者になります。特にデッキは、ほとんどが建物から出入りできるように設置してあるため、デッキに積もった雪がベランダや窓を塞いでしまうので除雪しなくてはならず、場所によっては屋根から落ちる雪の塊まりがフェンスを直撃して壊してしまう事もあります。テーブルやベンチもどこかに片づけるでしょう。逆に、除雪用具と同様に冬の雪囲いの竹や荒縄は、夏には隠しておきたい物です。

そこで収納できる折り畳み式デッキや、夏はトレリスとして冬は雪囲いで、といった「冬を考えた製品開

ウッディエイジ 1998年3月号

発」を念頭に当社は北国のガーデンプランを提供しています。

きっかけ

当社は昨年4月に法人を設立し、木製エクステリア商品のデザイン・設計・製造・販売を中心に行っています。一昨年まで私は近隣公園やオートキャンプ場などの施設の外構修景等の造園設計に携わり、主に実施設計をしていましたが、もっと身近な一般住宅の庭やマンションのベランダなど、住空間に密着したガーデンデザインを目指していました。

平成8年5月に高齢者住宅の庭に15㎡程のデッキを作る機会があり、条件として5点があげられました。

- ①建物のベランダから安全に出入りできる
- ②南に隣接しているアパートを視界から遮る
- ③冬は使わない（デッキの除雪はしたくない）
- ④施工は出来るだけ簡単にし、工期は3日以内
- ⑤費用はなるべく抑える

まずデッキの購入先を雑誌や電話帳で探しましたが条件の③に合うような物（デッキの除雪をしな



'98北海道技術・ビジネス交流会で商談中の丸山代表

には床板が外れなければならない、それが大きすぎても収納に困ります。)が道内では見つけられず、結局雑誌に載っていた関東のホームセンターから送料をかなりかけて低価格のキット商品を取り寄せて組み立てました。材質は輸入材のパイン材で、2×4材を組み合わせたものでしたが、3日目に塗装して完成し、④の条件をクリアできました。①は、不陸調整の段階で室内の床高とデッキのレベルが5cm以内になるよう、犬走りの砂利をデッキの脚の下に敷き、②は、同店で扱っていた輸入品のトレリス*をパーテーション代わりに付けて裏面にすだれを掛けることで、格子の間からの視界を柔らかく遮ることができました。商品を探す段階で一番大変だったのは③でしたが、購入したのは90cm角の組立式デッキを連結し、固定するもので、冬はすのこ状の床板を外して枠だけにすることで除雪の心配をなくしました。⑤に関しては、特に③の条件を満たすものを地元で見つけることができず、道内で特注にした場合と今回のように道外からかなりの送料をかけて既製品を取り寄せた場合を比較した結果は、後者に軍配が上がってしまいました。

こうしてデッキは無事完成しましたが、その年の冬を越した感想は、床板を外した状態は残った枠が目立ち過ぎ、室内からの見た目が悪く、デッキの枠も外れる方がいいということでしたが、その製品は一旦設置すると取り外しや取り付けがかなり大変です。

この経験で北海道仕様のエクステリア製品が地元がない点、また、多くの森林業界の方々から学んだ「木製品は使われる地域で育った木を使う」という点から、もっと快適な北国の庭を造るには、道産材を主体にした積雪地域向けのエクステリア製品の開発から始めるしかなく、これがそもそものきっかけとなりました。

それを機に道立林産試験場や道立工業試験場をはじめ様々な機関に相談にのって頂き、森林組合や製材業者・加工業者を訪ね歩きましたが、具体的な販路もさほどの資金もなく、ただ作って下さい、協力して下さいではどうにもなりません。更に「デッキって何?」となると、もう……。その上、木材に関する知識が全くなかったので、今思えば何と常識外れの行動をしていたのかと恥ずかしくなりますが、数え切れないほど多くの事を学ばせて頂きました。

*トレリス (trellis) : つる植物などを仕立てる格子棚 (垣)



北海道起業化促進奨励事業 優秀計画認定者紹介パネル
('98北海道技術・ビジネス交流会会場にて)

ちょうどその頃、情報紙で道のベンチャー支援の募集を知り応募、一次・二次審査をパスし、平成8年9月「起業化促進奨励事業起業化計画」の優秀計画に認定され、同年10月から2か年にわたり補助金が交付されることになりました。今年3月で終了しますが、最初の半年間は、試作品や模型を車に積んで、ひたすら加工委託先を道内中探し、平成9年4月有限会社マルヤマプランニングを設立、6月に札幌国際見本市に出展して商品化をスタートしました。当初、法人化や商品化は今年の予定でしたが、昨年1月の「技術・ビジネス交流会」に試作品を初めて出展したところ、予想以上の反響だったため、1年早くスタートを切りました。

通信販売

極力経費を掛けずに販売するために、主に通信販売方式をとっています。「女性でも組み立てられるエクステリア商品」をモットーにしていますので施工工事はなく工場からエンドユーザーに直送することで中間コストも抑えています。

最大の問題はどうやって宣伝するかでした。そこでまず当社のカラーを全面的に表したパンフレットを作り全国版の人気の高いエクステリア雑誌に広告を載せたほか、札幌の情報紙にも掲載し、各イベントに出展したりイベントを開いたり、また、ホームページも開設しました。

最初からの全国展開はあまり考えていなかったのですが、雑誌とインターネットの効果から現在、通販商品は9割が道外からの注文です。この数字は、北海道

の冬を考えて打ち出した商品なのに北海道では受け入れられていないことを表しており、価格や構造を含め検討し直す必要性を実感しています。

道内と道外

道内は、通販の商品にもかかわらず見てから購入したいと言う声がかなりあります。通販商品と比較すると特注品の割合の方が多いのですが、例えば物置や犬小屋など既製品ではサイズやデザインが合わず、庭全体にマッチしたものがほしいとか、小さな物ではこんな大きさの花台を作ってほしいなど、エクステリア製品に関しては、今までの使い手が既製品に合わせていた傾向から、使い手に合わせるオリジナル指向に変わりつつあります。その要因として流行に敏感で自分なりのこだわりを持つ20代から30代の若い世代の住宅取得者が増えたことや、数年前までは専門書の棚にしかなかった世界各国のガーデン関係の本や雑誌が一般の書店にあふれており、テレビでもガーデニング特集が各局で生まれ、どんどん情報が入るようになったことと、アウトドアブームも一因であると思いますが、これらは道内ばかりではなく、全国的な傾向と言えるでしょう。

道外では道内に比べ、エクステリア商品でも通販や個人輸入がかなり身近なものになっている上、北海道の木製品への憧れもありますが、求めているものは北海道の素朴さだけではなく機能性とデザイン性を兼ね合わせた商品で、その点では道内でも同じだと思います。また、エクステリア商品は生活していく上で必要不可欠の物ではありませんが、特に雪の心配のない道外では一年中利用できるのも、その余暇的部分だからこそかなりのこだわりを持っている人が多いようです。

「MUK」の特徴

「MUK」（ムク）は、当社のオリジナル木製品のブランド名です。北国の冬を考え、屋外空間をもっと楽しく快適にする商品として誕生しました。

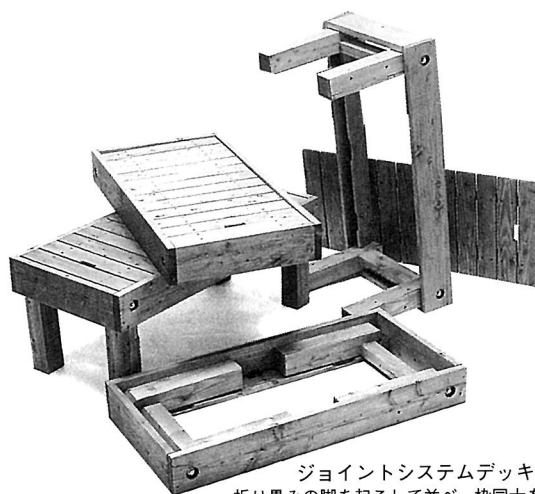
特徴は、

①組立が簡単

「MUK」は一商品に付き一工具を基本としています。家庭で簡単に組み立てられ、冬などに使わないものは収納できるよう、可動式・脱着式の

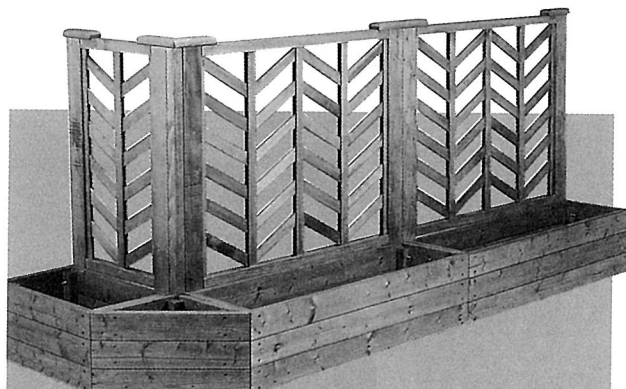
構造になっているので、庭先だけではなくイベント等での利用にも最適です。

例えば、「ジョイントシステムデッキ」は、デッキの脚が折り畳み式になっていて設置、取り外し収納がとても簡単です。60cm×120cmのデッキ同士を設置面積に合わせてボルトで連結するだけの画期的な構造です。



ジョイントシステムデッキ
折り畳みの脚を起こして並べ、枠同士をボルトで連結し、床を載せるだけ。収納もコンパクト。フェンスも簡単に付けられる。

また、施工に時間の掛かる塀の代わりに、フラワーボックスにフェンスを固定してボックスを連結するだけの「ジョイントシステムフェンス」は簡単に移動でき、パーツにばらして収納できます。



ジョイントシステムフェンス
平らな所ならどこでもすぐにフェンスがまわせる、可動式。室内のパーティーションにも。

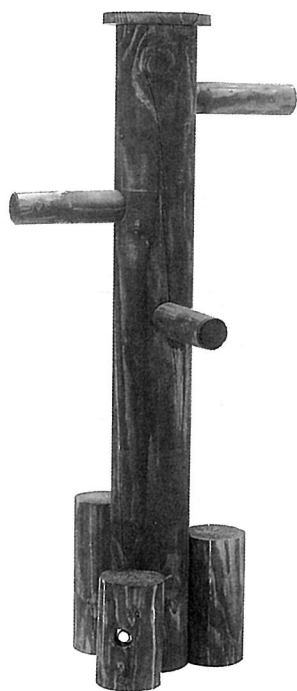
一年中使う犬小屋は、大雪からペットを守るように入口の庇を延ばし、高床式にしています。サイズは大型犬用ですがドライバー1本で組み立てられ、2人なら1時間程度で完成します。



高床式ドッグハウス

床高が50cmあるので大雪でも安心。前に出ている屋根が夏の日陰を作り、手前のデッキで春は日なたぼっこ。小屋の掃除がしやすいように入口は扉になっていて、中のすのこも取り出せる。

フラワースタンドやツリーボックス、藤棚もレンチ1本で組み立てられ、特に成型丸太を組み合わせたこれらの商品は、土のない場所に自然感を演出するのに適しています。



フラワースタンド

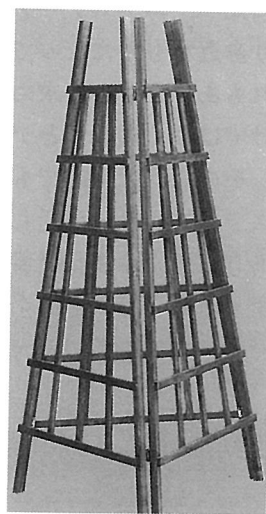
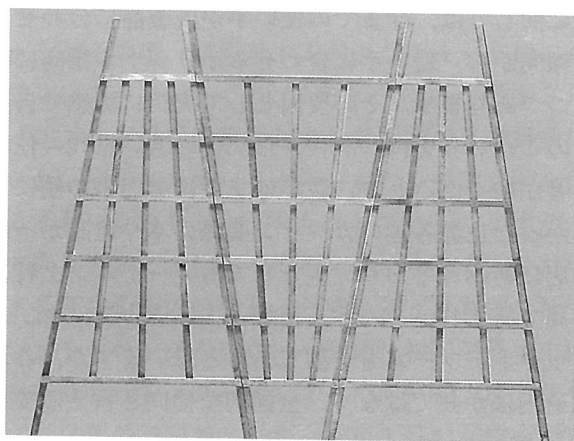
道産材（カラマツ）の成型丸太。鉢を置いたり吊るしたり、マンションのベランダにも似合う。

②通年利用

季節によって使い方を換え、一年中利用できる商品に「2ウェイトリス」があります。

3枚1組のトレリスを冬は立体的に組み、雪囲いで使います。大きな木には不向きですが樹高1.8cmまでの木を囲い、トレリスにイルミネーションを付ければひと味違った冬を楽しめます。

春から秋は、平面的につなぎ花を這わせて壁面を飾ったり、立体的なトレリスとしてハンギングバスケットを吊るし、いろいろな角度から見る事が出来ます。



2ウェイトリス

平面的に組み合わせて花を這わせて壁面の演出を。立体的で雪囲いに。又、ハンギングバスケットを吊るせば、三方向から楽しめる。

③遊び心のあるファニチャー

庭先やベランダに置くものは、見せる楽しみもあります。しかし時として景観を美しくするための収納や整理に必要な『箱物』自体が目障りになっ

てしまうことがあります。

「MUK」のダストボックスやミニガーデンシェッド（物入れ）は、ミニチュアハウスをイメージして鉢花を飾れるデザインで、ガーデンファニチャーとして遊び心のある商品です。



●ダストボックスダブル

●ダストボックス
シングル

ダストボックス

トドマツの羽目板を使い、ミニチュアハウスをイメージしたゴミ箱。ダブルは分別ゴミ用に最適。シングルは屋根が蓋になっている。



ミニガーデンシェッド

マンションのベランダにちょうど良いサイズ。ダストボックス(W)同様、煙突に鉢を飾れる。

④道産材の利用

「MUK」の素材は、道産材を主体にしています。トド松やカラ松を始め、間伐材も出来る限り

利用しそれぞれの商品に合った素材選びをしていますが、価格や構造上などの点で全てとはいかず、これからの大きな課題の一つとなっています。



●テーブル



●ベンチ (L・S)

ツーバイテーブルベンチセット
道産材（トド松）の間伐材のツーバイフォー・
ツーバイシックス材をキットにし、ドライバー
1本で簡単に組み立てられる。



丸太ベンチ

道産材を使い、フラワーポット用の穴を空けて
素朴さと遊び感覚をデザイン。

北海道の町並み

公共事業でも様々な所で木製品が使われています。

公園の遊具や休憩設備を始め、ウッドチップなどの舗装材、園名板や工事案内板に至るまで、昔に比べるとかなり身近にデザイン性あふれる「木」の温もりを感じることができます。

公園や河原で座ったベンチの温もりや、藤棚が作る木陰の優しさを個人の生活空間にも取り入れるようになり、「家庭で楽しむガーデンライフ」が北国でも広がり始めています。また、そこに住む人だけではなく

「道行く人にも見せる庭造り」がプラスされ、北海道の自然と調和した美しい町並みが21世紀には今よりもっと見られるようになることでしょう。

木製エクステリア製品の普及は、それを取り入れた

大小様々の空間が創り出す『北海道らしい景観』につながり、更に道内の活性化にも通じていくことを願っています。

会社概要等

北の庭に遊びと安らぎの空間を演出する

有限会社 マルヤマプランニング

住所 〒005

札幌市南区南沢3条1丁目10-1

電話 011-572-0919

ファクス 011-572-6009

特徴および主要取扱い商品

道産材を主体にした木製エクステリア商品のデザインから販売までを行い、トータル的なガーデンデザインや木製品のオーダーも手掛けています。H9年7月より商品化を開始。

1. ダストボックス（シングル・ダブル）

ミニチュアハウスをイメージした木製のゴミ箱、庭やベランダにぴったりのとても可愛いデザインです。

2. 道産材（トドマツ）の利用例

人工乾燥材トドマツの2×4、2×6材を用いたデッキやガーデンシェッド（物置）などを提案します。

3. 屋外空間のデザイン

様々な組合せによって簡単に空間を演出します。

ご寄稿歓迎

「ウッディエイジ」は会員の皆様でつくる情報誌です。皆様の誌面を十分にご活用ください。

皆様がお持ちの研究結果、ご意見、提案、製品紹介など林産技術にかかわる情報なら何でも歓迎します。原稿にまとめて普及協会事務局までお送りください。採用の分には薄謝を呈します。

（お問い合わせ先）

☎071-0181 旭川市西神楽1線10号

（社）北海道林産技術普及協会

TEL/FAX 0166-75-3553

新会員募集中

社団法人北海道林産技術普及協会は木材と林産の科学と技術に関心を持っている全ての人々のネットワークです。当協会には経営者、技術者、研究者、教育関係者、インテリアプランナー、クラフトマンなど多彩な分野の人々が参加しています。

会員になりますと、実用的な木材研究で知られている北海道立林産試験場の研究を分かりやすく紹介する技術雑誌「ウッディエイジ」を通じて、多くの有益な情報にいち早く接近できます。

ネットワークは広がれば広がるほど優れたものになります。会員の拡大にご協力ください。